

海外におけるラジオ体操等の普及に
関する調査研究
報告書

平成28年4月

一般財団法人 簡易保険加入者協会

ごあいさつ

当協会は、昭和 35 年 8 月に郵政大臣の許可を得て民法上の公益法人である財団として設立され、簡易生命保険加入者共同の利益と福祉の増進を図ってきました。それから半世紀余を経た平成 25 年 4 月 1 日に一般財団へ移行するとともに、災害見舞事業を認可特定保険業として承継しましたが、引き続き簡易生命保険加入者共同の利益と福祉の増進に取り組んでおります。

これまでも、当協会は公益目的に資する事業の一環として、ラジオ体操・みんなの体操の普及推進のほかラジオ体操に関する調査研究を毎年行っておりますが、平成 27 年度は、平成 26 年度に引き続き株式会社日本総合研究所に委託して、「海外におけるラジオ体操等の普及に関する調査研究」に取り組んでまいりました。

ハワイにおけるラジオ体操の普及活動を行ってきた有識者に対する訪問ヒアリング調査等を行いました。その間、ハワイのラジオ体操事情に詳しい佐川幸司 様からも多大なお力添えをいただき、このたび、報告書を取りまとめることができました。

本調査研究にあたっては、青山敏彦 NPO 法人全国ラジオ体操連盟理事長、矢島徹株式会社かんぼ生命保険広報部課長、ハワイのラジオ体操事情に詳しい佐川幸司 様及びハワイにおいてラジオ体操の普及活動を行ってきた有識者の皆様方から多大なご支援、ご協力を頂きました。ここに関係の皆様方には、心から御礼申し上げます。

本報告書がラジオ体操・みんなの体操の普及をはじめ我が国の社会の発展にお役に立つことができれば幸いです。

これからも当協会は、安心社会の実現に向けて、微力ではありますが積極的に取り組んでまいりますので、引き続き、皆さま方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成 28 年 4 月 1 日

一般財団法人簡易保険加入者協会

理事長 齋尾 親徳

目次

第1章	本調査の背景と目的	1
1節	調査背景	1
2節	調査目的	1
3節	調査対象	1
4節	調査内容	2
5節	調査スケジュール	3
第2章	ハワイにおけるラジオ体操の普及上の課題の整理	4
1節	政治的課題	4
2節	経済的課題	4
3節	社会的課題	4
第3章	有識者インタビュー調査	6
第4章	ハワイにおける現地調査	8
1節	日系人コミュニティ	8
2節	在留邦人コミュニティ	11
3節	日本人観光客向け団体	14
4節	現地メディア	18
5節	その他	24
	【コラム】ハワイ「ラジオ体操の会」参加レポート	26
第5章	ハワイにおけるラジオ体操普及策の検討	27
1節	調査結果から導出される潜在的なニーズ	27
2節	ハワイにおけるラジオ体操普及の方向性	29
第6章	結論	30

【図目次】

図 1	調査スケジュール	3
図 2	ハワイにおけるラジオ体操普及上の課題整理	5
図 3	有識者インタビューの調査結果	7
図 4	オキナワン・フェスティバルの様相	10
図 5	ハワイ「ラジオ体操の会」の様子	26
図 6	調査から導出されるラジオ体操の潜在的なニーズ	28
図 7	段階別ラジオ体操普及の方向性	29

第1章 本調査の背景と目的

1節 調査背景

本調査は、昨年度（平成26年度）に実施した「海外におけるラジオ体操等の普及状況に関する調査研究」の継続として、海外におけるラジオ体操等普及策を調査するものである。

昨年度は、文献調査・インタビュー調査を中心に、海外の日本人社会、海外進出企業やJICA ボランティア（青年海外協力隊）等のラジオ体操等の普及推進状況について調査を行った。

その結果、海外でラジオ体操等が普及していく可能性がある地域は、大規模な日系人社会や日本人渡航者（在留邦人、観光客）が多い、ブラジルやハワイなどの限られた地域であることが明らかになった。

これら昨年度の調査結果を踏まえ、今年度（平成27年度）は現地調査を加えた、より詳細な普及推進状況を把握し、海外におけるラジオ体操等の普及策を検討していく。

2節 調査目的

本調査はラジオ体操等普及可能性の高い海外地域のうち、より可能性が高いと推察されるハワイ地域のラジオ体操等の普及推進に関する現在の状況や課題を明らかにし、ハワイ地域でのラジオ体操等普及策について検討することを目的とする。

3節 調査対象

簡易保険加入者協会（以下、「加入者協会」という。）の公益目的事業であるラジオ体操等普及活動は、主に日本国内を対象として進めてきている。海外である本調査は、ハワイの在留邦人、日系人ならびにハワイを訪れる日本人観光客を主な対象として調査・検討を進める。但し、これに付随して海外でもラジオ体操等が普及していくことについては、それを妨げるものではない。

4 節 調査内容

本調査の調査項目及び調査内容は下記のとおりである。

I. ハワイにおけるラジオ体操の普及上の課題の整理

昨年度（平成26年度）の調査結果を踏まえ、ハワイでラジオ体操等を普及させる上で、障害になるものはないか、①政治、②経済、③社会の3つの観点から文献調査を行い、ハワイにおけるラジオ体操等普及上の課題の再整理を行う。

II. 有識者へのインタビュー調査

誰に対してラジオ体操等を普及させることが最も効果的か、これまで日本および海外、とりわけハワイでラジオ体操等の普及活動を行ってきた有識者にインタビュー調査を行い、普及ターゲットとなりうる現地ヒアリング調査の候補先を検討する。

III. 海外における現地調査

文献調査、有識者インタビュー調査結果を踏まえ、ハワイにおけるラジオ体操等の普及の担い手、あるいは普及のターゲットとなりうると思った団体・コミュニティを選定し、現地インタビュー調査を行うことで、ハワイにおけるラジオ体操等の普及実態を明らかにする。

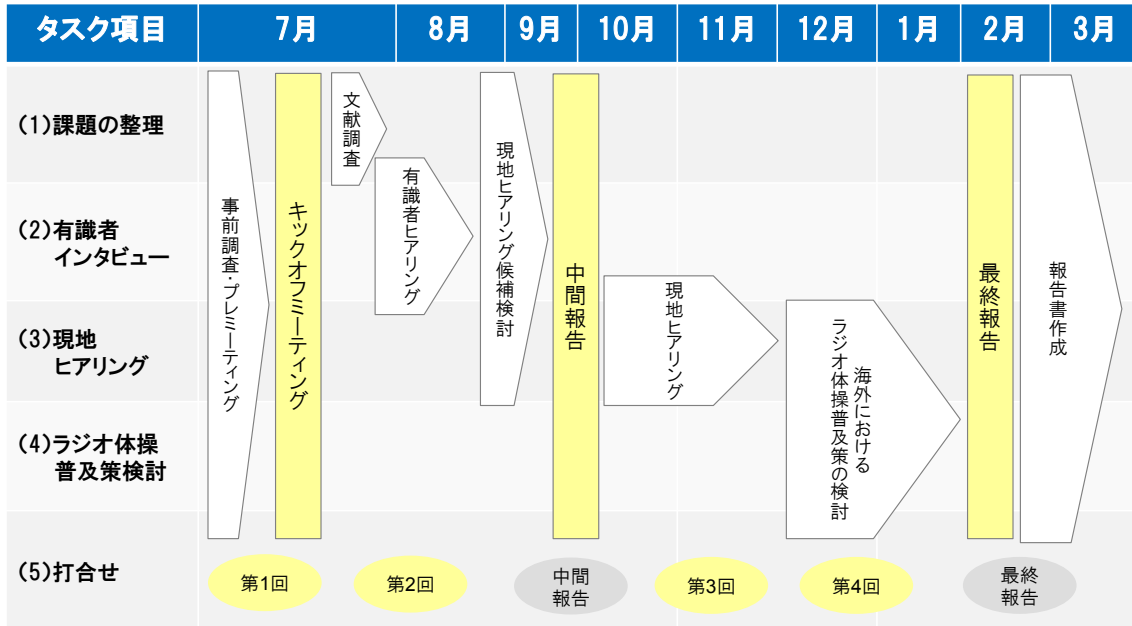
IV. 海外におけるラジオ体操普及策の検討

上記調査結果を踏まえ、海外におけるラジオ体操等の普及方法を検討する。

5節 調査スケジュール

本調査の調査スケジュールは下記のとおりである。

図 1 調査スケジュール



第2章 ハワイにおけるラジオ体操の普及上の課題の整理

本調査では、ハワイにおけるラジオ体操等の普及上の課題について、「政治」「経済」「社会」の3つの観点から整理を行った。

1節 政治的課題

移民によって構築されたハワイの日系社会は非常に大きく、また多くの日系政治家を輩出するなど、これまでハワイの政治に日系人が大きく貢献してきている。その一方、真珠湾攻撃をはじめとする第二次世界大戦時の影響が、今なお現存している点は否めない。ラジオ体操等はともすれば日本とハワイにおける負の歴史を想起させてしまう可能性があるため、普及に当たっての政治的課題として、一定の配慮が必要であると考察される。

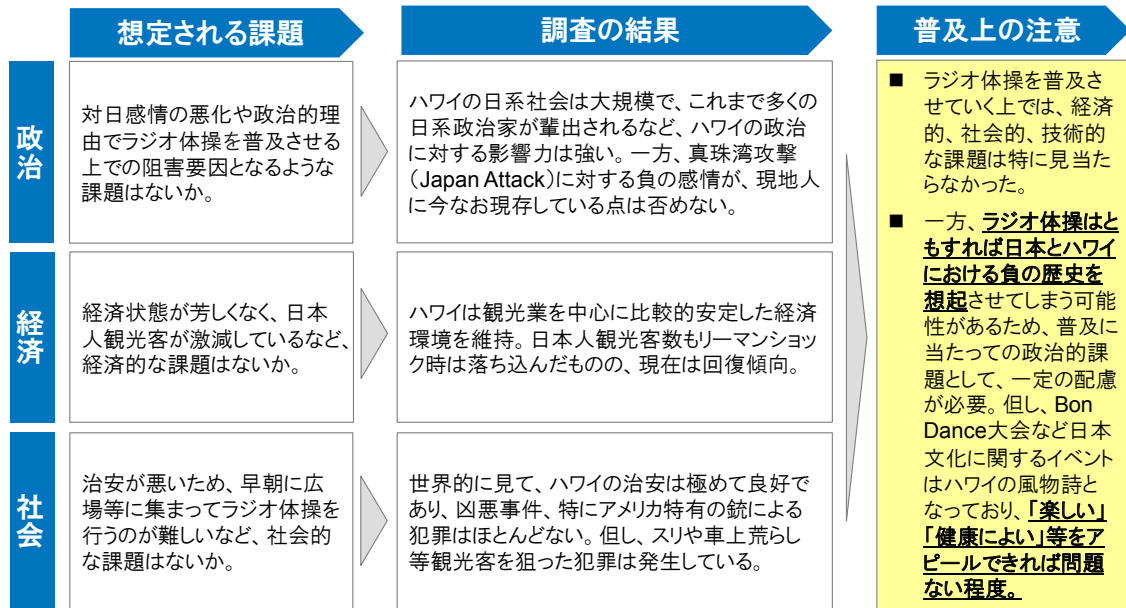
2節 経済的課題

投資や観光をはじめ、日本とハワイとの経済交流は活発であり、経済関係がラジオ体操等の普及に関して特段、課題になることはないと推察される。特にハワイ観光局をはじめ、観光客数を1990年代水準の200万人規模に増やそうと積極的な動きを見せているため、ラジオ体操等を絡めた観光商品の開発などには、ハワイ当局も関心を持つ可能性がある。

3節 社会的課題

ハワイは世界的に見て治安は良好だが、観光客をターゲットにしたひったくりや置き引き、車上荒らしは多い。日本人観光客がラジオ体操等を行う際は、日中、人通りの多い公園やホテル内の広場など、治安面で安全な場所で行うといった配慮が求められる。

図 2 ハワイにおけるラジオ体操普及上の課題整理



第3章 有識者インタビュー調査

本章では、これまで日本および海外、とりわけハワイでラジオ体操等の普及活動を行ってきた有識者にインタビュー調査を行い、ハワイにおける普及ターゲットとなりうる現地ヒアリング調査の候補先を検討した。検討の手順としては、まず日本で行われているラジオ体操等の普及活動を整理した上で、有識者に海外（ハワイ）でラジオ体操等を普及させていく上での示唆を頂き、現地ヒアリング調査の候補先を決定することとした。

日本におけるラジオ体操等の普及策調査および有識者へのインタビュー調査結果を踏まえると、現在、日本ではラジオ体操等の普及に当たり、主として講習会の開催、ラジオ体操等指導者の養成、自治体へのラジオ体操等普及支援、ラジオ体操等普及イベントの開催、ラジオ体操等の健康効果に関する調査研究、ラジオ体操等の効能に関する教材・啓発用のパンフレット等の作成といった普及策が採られていることが判明した。

また、有識者の見解として、普遍的なラジオ体操等普及策を講じるよりは、ターゲットの特性（ラジオ体操等の認知度、世代、属しているコミュニティの違い等）に合わせた普及策を検討するほうが、効果的であるとの知見が得られた。そこで、簡易保険加入者協会が普及のターゲットとしている、①日系人、②在留邦人、③ハワイを訪れる日本人観光客に関連する団体を、現地ヒアリング調査の対象とすることとした。

以上に加え、有識者から、普及に当たってはメディアと連携することが重要であること、現地調査に当たっては、将来、普及の担い手になりうる普及ターゲット（個人・団体・コミュニティ）を発掘することが重要であるとの知見が得られた。そこで、現地ヒアリング調査に当たっては、④現地メディアを新たに加え、また、なるべくラジオ体操等に関連する団体を抽出することとした。以上を踏まえて検討した結果、現地ヒアリング調査を下記団体に対して行うこととした。

I. 日系人コミュニティ

- ハワイ沖縄連合会

II. 在留邦人コミュニティ

- NPO ハワイシニアライフ協会

III. 日本人観光客向け団体

- まつり・イン・ハワイ事務局（近畿日本ツーリスト株式会社）
- 日本ハワイ旅行業協会

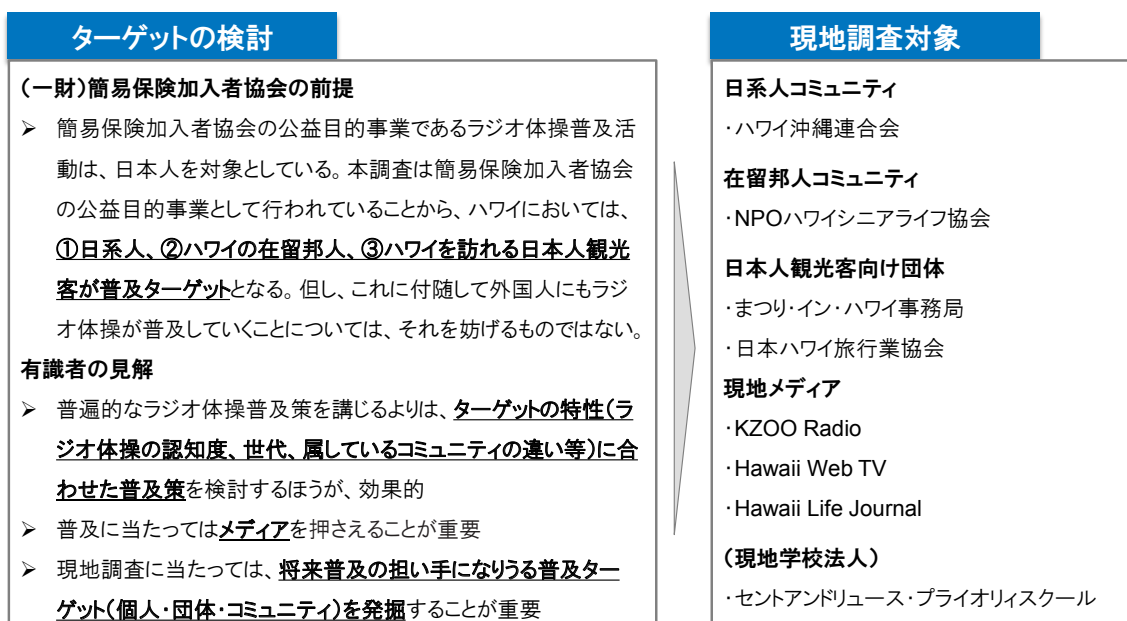
IV. 現地メディア

- KZOO Radio
- Hawaii Web TV
- Hawaii Life Journal

V. その他

- セントアンドリュース・プライオリィスクール

図 3 有識者インタビューの調査結果



第4章 ハワイにおける現地調査

本章では、ハワイにおけるラジオ体操等普及に関する現地ヒアリング調査により得たラジオ体操等普及に関する知見を中心に報告する。

1節 日系人コミュニティ

I. ハワイ沖縄連合会

組織名	ハワイ沖縄連合会
インタビュー応対者	Executive Director Jane Serikaku
インタビュー日時	2015年11月24日(火) 9:00～10:30

1. 組織概要

この法人は、ハワイに50ある大小さまざまな沖縄県人グループを束ねる組織である。ハワイにおける沖縄文化の継承を目的の一つとし、沖縄舞踊をはじめ、様々な沖縄文化継承プログラムを提供している。また、ハワイの大小さまざまな島、沖縄県の大小さまざまな島とも教育を通じた交流があり、特に小・中学校の交流プログラムなどに注力している。その他、再生エネルギーに関する交流もハワイと沖縄との間で活発に行われている。

【交流都市例】

沖縄県 - ハワイ州

那覇市 - ホノルルシティ

石垣市 - カウアイ

宮古島市 - マウイ

名護市 - ヒロ

久米島 - コナ

2. 主な取組み

① 沖縄文化継承と若手リーダーの養成

ハワイ沖縄連合会はハワイにおける沖縄文化の継承を主たる目的の一つとしている。主なプログラムとしては沖縄へのスタディーツアーのほか、沖縄舞踊をはじめ、太鼓、三線、沖縄カラテ教室などが挙げられる。これらはすべて県人会スタッフのボランティアによって行われている。またハワイ沖縄連合会は特に若手のリーダー養成に力を入れており、文化継承プログラムの参加者から企画・運営にも携わるようなリーダー教育も施している。子供向けには、**Children's Cultural Day Camp** というプログラムで、子ども向けの沖縄のパフォーマンスアートや料理教室、歴史教室や沖縄方言教室などを開催している。そのほか、年に一度開かれる式典では、新たなプレジデントの就任祝いやその年の「うちなんちゅう」（もっとも優れたボランティア活動を行った栄えあるクラブを表彰）や、様々なスポーツリーグの優勝者の表彰なども行っている。

② イベントの開催

ハワイ沖縄連合会では大小様々なイベントを開催しているが、オアフ島最大の公園であるカピオラニ・パークで開催されるハワイで最大規模のイベントであるオキナワン・フェスティバルは圧巻である。30,000人以上の会員がいる沖縄県人会メンバーが全てボランティアでフェスティバルに携わり、ハワイ沖縄連合会はその運営の指揮をとる。その中でも毎年催される **Bon Dance** 大会はハワイ最大級であり、多くの観光客を集め、オキナワン・フェスティバル総計では 50,000人以上の観光客を集めたという報告もある。その他にもハワイ各地の島々で開かれる沖縄県人会主催のダンス大会やボートレースの後援も行っている。

3. ラジオ体操等の普及に関する知見

日系社会ではラジオ体操等は知られていない(日系2世のSerikaku氏のご存知なかった)。日系社会でラジオ体操等を広めるならば、ラジオ体操等の成り立ち、歴史やラジオ体操等を行う目的、ラジオ体操等の効果等を英語で説明する必要がある。またラジオ体操等普及にあたっては音声だけではなく、動画を含めて英語のコンテンツが必要であり、英語のコンテンツがあれば沖縄連合会のコミュニティの中でラジオ体操等を紹介していくことは可能である。

図 4 オキナワン・フェスティバルの様相¹



¹ ハワイ沖縄連合会 HP より抜粋 <<http://www.okinawafestival.com/contest/OFPC%202015/index.html>>

2節 在留邦人コミュニティ

I. NPO ハワイシニアライフ協会

組織名	NPO ハワイシニアライフ協会
インタビュー対応者	会長 坂井 諒三 理事 塚原 勉
インタビュー日時	2015年11月24日(火) 9:00~10:30 2015年11月25日(水) 18:00~20:00

1. 組織概要

この法人は、アロハの精神(全てを受け入れる「心」や「精神」、「思いやり」・「尊敬」・「愛」をもって人に接する事を意味する)を世界に発信し、日本とハワイの架け橋になることを目的に、団塊のリタイア世代をターゲットに、2007年に設立された。現在は1,100名の会員が在籍し、在留邦人と日系人の交流や地域社会への貢献など、草の根の交流活動を行っているほか、主にハワイ長期滞在者向けの交流プログラムを提供しており、そのイベント・サークル活動は年間100件程度になっている。姉妹組織として「なでしこクラブ」という女性中心の組織もあり、東日本大震災で被災した子供たちの受け入れを行っている。

2. 主な取組み

① ウクレレ教室

ウクレレ教室は長期間継続しているプログラムである。当初は同会に気軽に参加してもらうため、初心者や都度入会出来るようにしていた結果、ある程度の時間が経つと初心者コースでは物足りない人が出てくるようになった。初心者コースの授業料を無料とし、上級者クラスの授業料を有料にした結果、不満は解消されたが、時間が経つにつれて会員ニーズは多様となる。コンテンツもマンネリ化してくるため、会員のニーズに常に応えながらバラエティに富んだプログラムを提供していくことが必要であ

る。

② ラジオ体操会

シニアライフ協会の会員の健康増進と日本語でしゃべれるコミュニティづくりを目的として、ラジオ体操会はスタートした。特に現在、幹事の塚原氏は郵政関係の勤務経験者だったこともあり、ラジオ体操等が健康増進に非常に効果があることを理解しており、特に塚原氏が幹事となってからは真剣にラジオ体操等を行うようになった。毎週水曜日 8:30 からアラモアナパークのマジックアイランドで行われている。参加は無料だが参加 1 回につき 1 ドルの寄付をした人には、スタンプをスタンプカードに押すようにしており、ある程度スタンプがたまるとシニアライフ協会のファンドから景品がもらえる仕組みとなっている。現在はラジオ体操等だけでなく、村田フェイ氏が組んでいる「ニコニコ元気体操」と組み合わせるなど、多様な体操会となっている。

3. ラジオ体操等の普及について

ラジオ体操等は誰もが知っているものであり、予備知識がなくても行えるのが特徴である。知らないコミュニティに溶け込むには（コミュニティへの参加を呼びかけるには）絶好のツールである。ラジオ体操等だけを行うのでは長く続かず、参加者も増えない。村田フェイ氏を招いた「ニコニコ元気体操」をセットで取り入れることで、ラジオ体操会が盛り上がった。ラジオ体操等だけではなく、別のコンテンツやイベントなどに関連させることが、普及・継続のポイントである。NPO ハワイシニアライフ協会のラジオ体操会でもクールダウン時に自己紹介をするようにするなど、体操だけではなく、コミュニティに溶け込むための工夫を行っている。

日本語でおしゃべりが出来ることも重要である。日本語で話すことでストレス発散にもなり、安心感も生まれる。単にラジオ体操等を行うだけでなく、参加者のニーズを汲み取った取り組みを合わせて行うことが、結果的にラジオ体操等の継続に繋がる。スタンプカ

ードを作ったのは参加を促すインセンティブの意味合いもあるが、「童心に帰る」という観点もある。

認知度・知名度を向上させるには、ホノルルフェスティバルなどのイベント会場でラジオ体操等を行うことが効果がある。NPO ハワイシニアライフ協会の姉妹団体である「なでしこクラブ」もかつてホノルルフェスティバルに参加した際、ラジオ体操等が好評だった。イベントを活用してラジオ体操等を行うことには、シニアライフ協会も協力の余地があると思われる。ラジオ体操等そのものではなく、ラジオ体操等を交流のためのツールとして使っていくことが普及のポイントである。

3節 日本人観光客向け団体

I. まつり・イン・ハワイ事務局

組織名	まつり・イン・ハワイ事務局
インタビュー応対者	近畿日本ツーリスト 営業統括本部 販売部 事業推進 次長 山田 正俊 株式会社イベント&コンベンションハウス 営業企画部 次長/チーフディレクター 吉岡 光晶
インタビュー日時	2015年11月18日(水) 14:00~15:30

1. まつり・イン・ハワイの概要

1980年、日本人観光客向けに、「観るだけではなく自分たちが主人公になる」+「日本人とハワイ在住の日系人・アメリカ人との交流」をコンセプトに、「まつりインハワイ」の第1回が開催された。ハワイ、とりわけホノルルは日本人にとってキング・オブ・リゾートであり、観光地としてメジャーでかつ治安も良好、日本食やショッピング施設も充実している場所であることから、日本人観光客が潜在的に欲求するすべてがそろっている場所である。これらの理由からハワイ・ホノルルが開催地として選ばれた。

「まつりインハワイ」は基本的に、日本人の「他人に見てほしい願望」を満たし、「チームとしての一体感」を作り出すための舞台であり、日本人観光客のハワイ旅行誘致を目的とするものである。フラダンス愛好者には「フラダンスの聖地ハワイで踊ってみたい」という需要が多く、フラダンスを真剣に踊りたい人向けの場所や楽しい思い出作りをしたい人達向けの場所など、ニーズに応じた舞台を用意している。

舞台に上がるのは基本的に日本人観光客だが、現地の人からの参加もある。現地の人たちは祭りの飲食店への出店が中心であり、舞台は日本文化、出店は現地といった形で交流が図られる工夫がされている。最近は趣味が多様化してきており、フラダンスだけではな

く、チアリーディングやストリートダンスなどのコンテンツも専門家のアドバイスを受けながら始め出した。また、現地の人々との相互交流という観点から、ハワイ現地の伝統となっている Bon Dance を取り入れたイベントなどにも力を入れ始めている。日系の県人会などを中心に参加を呼びかけている。盆踊りは事前の打ち合わせが不要なく、皆が気軽に参加できて楽しめるので、魅力的なコンテンツであると捉えている。

2. ラジオ体操等の普及について

事前の打ち合わせがなくても誰でも参加できるという点では、Bon Dance と共通しており、イベントのコンテンツとして期待できる。例えば、パレードの前に皆で広場に集まるが、その場で 1,000 人を超える人がラジオ体操を行えば非常に壮観であり、インパクトがある。「恋するフォーチュンクッキー」が流行ったように、ラジオ体操を皆で楽しく踊っている様子を動画にして、インターネット上にアップするなど若い世代が参加できるように、敷居を低くして訴えかけていくこともまた必要である。

II. 日本ハワイ旅行業協会

組織名	日本ハワイ旅行業協会
インタビュー対応者	会長 星野 明夫
インタビュー日時	2015年11月24日（火）16:00～17:00

1. 組織概要

この法人は、ハワイの日本人観光客の拡大とハワイ旅行業界の親睦を目的に1970年に設立された。ハワイの旅行業界の質的向上を掲げてセミナーや教育を行ったり、旅行会社単独では解決できない問題への対処、緊急時は領事館と連携しながら邦人保護に協力したりしている。

2. 日本人観光客の動向

個人旅行者の増加が顕著である。ハワイに住居やタイムシェア物件を所有する人が増えていると言われている。個人の趣向に合わせたオプションツアーも増えている。また最近レンタカーを借りて個人で観光する人も増えているが、一方で車上荒らしがハワイでは急増している。特に日本人は被害にあっても犯人を告訴しない傾向があり、それが犯罪者の間で知られつつあり、日本人をターゲットとする犯罪が増えてきている。

最近旅行客が事前にインターネットで情報を集めてからハワイを訪れるケースが多く、ガイドが知らない穴場を教えて欲しいと言われることが多い。ガイド数の減少と高齢化が進んでおり、日本人顧客の多様なニーズに対応出来るクオリティの高いガイド（人材）の確保が旅行業界にとっての課題である。

3. ラジオ体操等の普及について

ハワイでは「ホノルルフェスティバル」が毎年3月に開催されている。日本から約3,000人、現地での参加を含めて6,000人近くが参加しており、こうしたイベントでラジオ体操等を行うことは非常に効果があると思われる。このフェスティバルは、日本の文化をハワイに紹介し、広めることを一つの目的にしている。ラジオ体操等は日本の文化の一つと言えるものであり趣旨にもかなっている。フェスティバルの最終日に行われるパレードや駅伝開始前の準備運動としてラジオ体操を行えば壮観であり、普及には非常に効果があると思う。

Kzoo ラジオがラジオ体操等を放送しており、また多くの日本人（観光客を含む）が聴取しているので、普及に当たっては Kzoo ラジオにアプローチしてみるのが良いのではないかと。「おらほのラジオ体操」のように、英語版やハワイ語版のラジオ体操コンテンツを作るのが良いのではないかと。

4 節 現地メディア

I. KZOO Radio

組織名	KZOO Radio
インタビュー対応者	General Manager ROBYN FURUYA Program Director 浴本かおる
インタビュー日時	2015年11月23日(月) 13:00~15:00

1. 組織概要

この法人は、1963年10月18日、ハワイ在住の日系人向けに、ニュース、音楽、イベント情報などを日本語で放送するラジオ局として開局し、爾来53年になる。当時の日系人は「日本や日本語が恋しい」と思う傾向が強く、そうしたニーズに応えるラジオ番組を放送していた。現在は日本のラジオ局とも様々な交流をしており、日米ラジオ局を跨いだクロストークなども頻繁に行われている。

2. 主な取組み

① 日本語がわかる人すべてをターゲットとした番組作り

これまでは、浪曲や演歌、歌謡曲が多かったが、現在は最新のJポップ、ロックなど、幅広い年代層に向けた番組作りを行っている。日系人だけではなく、在留邦人、日本人観光客など、「日本語がわかる人」すべてがターゲットであり、通常時は、ローカルニュース、交通渋滞情報や地元のイベント紹介、またハワイは旅行業が中核産業のため、旅行業界向けの情報など、地元のニーズに根ざした情報提供が中心である。またKZOO ラジオはハワイ州公認の災害緊急時の日本語放送局で、災害やテロといった緊急情報は日本語で放送し、地元の住人だけでなく日本人観光客に配慮した報道を行っている。

② ラジオ体操等の放送

ラジオ体操等はラジオ局開局当初から毎日放送しており、特別番組などでラジオ体操等を放送しないときは、必ず3、4名の熱心なリスナーから「なぜラジオ体操等を放送しないのか」との問い合わせがあり「ラジオ体操等は外せないプログラム」と認識している。

3. ラジオ体操等の普及について

ラジオ体操等の歴史や背景、健康に対する効果などをわかりやすく伝えていく必要がある一方で、「リラックスできるゆるい」ラジオ体操（例えばウクレレバージョン、ハワイ語バージョン等）も参加者を増やす（裾野を広げる）と言う点では必要ではないか。また、「ハワイでギネスに挑戦！」など、ラジオ体操等に関するイベントを行うのはどうか。ハワイでカラオケが流行していなかった頃（35年前）、カラオケフェスティバルをKZOO ラジオで企画したところ、現地アメリカ人も含めて大好評ですぐに普及した経緯がある。イベントはメディアとしても取り上げやすいので、スポーツイベントでは必ずラジオ体操を行うように呼びかけるといったことも、普及の観点からは必要ではないか。

II. Hawaii Web TV

組織名	Hawaii Web TV
インタビュー応対者	Vice President 塩沢 淳子
インタビュー日時	2015年11月26日(木) 12:00~13:00

1. 組織概要

この法人は、ハワイを動画・映像番組で案内するWEB情報チャンネルを提供している。日本語が理解できる「ハワイを愛する人」すべてがターゲットであるが、日本人観光客（もしくはハワイへの旅行を検討している人、リピーターなど）が閲覧者としては多く、観光系のコンテンツの数が特に多い。

2. 主な取組み

① ハワイの歴史・文化に関するコンテンツの配信

配信しているコンテンツの中でも反響が多く、好評なのは、歴史や文化に関するコンテンツである。「サダ子の折り鶴（広島原爆で被爆した少女の特集）」や「真珠湾」に関するコンテンツは日本人観光客やハワイ在住の日本人だけではなく、日系人、あるいはハワイ人（アメリカ人など）からも好評である。

② 「ハワイからおらほのラジオ体操」コンテンツの配信

当時、Hawaii Web TV に在籍していた佐藤しのぐ氏が手掛けたコンテンツである。2011年の東日本大震災で被災した東北の復興支援目的の一環で作成された（詳細は、Hawaii Life Journal・佐藤しのぐ氏へのインタビューにて掲載）。

3. ラジオ体操等の普及について

ラジオ体操等の普及に当たっては、まず日本人が集まる場所での PR が必要である。「まつりインハワイ」や「ホノルルフェスティバル」でラジオ体操等を行うことは非常にインパクトがあり、普及には絶好の機会ではないか。イベントと絡めたインパクトのあるコンテンツはメディアも取り上げやすく、さらなる波及効果が見込める。

ハワイでは、真珠湾を皮切りに「日米間の歴史」に敏感な層があり、配慮する必要があるが、若い世代は抵抗が少ない。世代を分けて普及策を検討すべきではないか。ラジオ体操等だけでなく+αのコンテンツ、例えば気功やヨガなどを絡められると良いのではないか。

ラジオ体操等をハワイで普及させるには歴史的背景や健康に関する効果等をしっかりと説明できることが必要である。英語のコンテンツはもちろん、ハワイ語やウクレレ調のコンテンツなど、普及に当たってはアクセスが容易になるよう敷居を低くするコンテンツを設けることが必要である。

III. Hawaii Life Journal

組織名	Hawaii Life Journal
インタビュー応対者	佐藤しのぐ
インタビュー日時	2015年11月25日(水) 13:00~14:00

1. 「ハワイからおらほのラジオ体操」のキッカケ

佐藤氏は仙台出身であり、2011年の東日本大震災で被災した東北に金銭や物資面ではない支援をしようとした際に、「おらほのラジオ体操」を知る。「おらほのラジオ体操」のハワイ版を作成することで東北を支援したいという思いで企画をし、「ハワイからおらほのラジオ体操」を配信することとなった。

2. コンテンツの作成について

佐藤氏の個人的なコネクションを通じて、メディア関係企業やダンススクールなどに協力を依頼して作成した。困難だった点は、コンテンツの趣旨説明とラジオ体操等に関する説明である。趣旨説明は「東北を応援する」ということで理解を示してくれるが、ラジオ体操等については日本人であれば理解が出来るものの、ハワイ現地のアメリカ人に理解を求めることには苦労した。ただし、協力を承諾してくれれば話が早く、実際、ラジオ体操等が初めての人たちでも一発撮りでラジオ体操等を踊ることができた。コンテンツに対する反響としては、ハワイの内外を問わず、日本人からは好意的な反応が非常に多かったが、ハワイ在住のアメリカ人からも「面白い」「楽しそう」という非常に好意的な反応が多かった。

3. ラジオ体操等の普及について

国民レベルでみんなが知っている体操というのは、ラジオ体操等をおいて世界には類が

なく、ラジオ体操等は非常に魅力的なコンテンツだと言える。「おらほのラジオ体操」は「東北への支援」という意義があったため、広まりやすかったと考える。ラジオ体操等を普及させていくためにはラジオ体操等を行う意義・目的や他のコンテンツやミッションとミックスするなど、付加価値を付けていくことが必要ではないか。また、ラジオ体操等の健康に対する効果についても説明が出来れば、特に健康への関心が高いシニア世代などは評価されるのではないか。

市民参加のエンターテインメントの一つとしてラジオ体操等を行うのも一つの方法である。日本文化センターのイベントとしてラジオ体操等を行うことは集客も見込めるので有効ではないか。またラジオ体操等をシニアや子供だけのものとするのではなく、イメージ（あるいはテスト・趣向）を変えることも必要かもしれない。ラジオ体操等のイメージは「正統派」「誠実」という印象がある一方、どうしても「古臭い」印象があるため、個人の特性を踏まえたリズムに変えたり、テレビやマスコミで馴染みのある著名人がラジオ体操等を行うといったことをすれば効果があるのではないか。

普及に当たっては推進団体の一本化が必要であり、組織的なバックアップも必要である。総務省だけではなく、厚生労働省や文部科学省との連携も必要ではないか。

5 節 その他

I. セント・アンドリュース・プライオリー・スクール

組織名	セント・アンドリュース・プライオリー・スクール
インタビュー応対者	日本語教師 本田寿栄子
インタビュー日時	2015 年 11 月 25 日（水）16:00～17:00

1. 組織概要

St. Andrew's School は幼稚園から小・中・高等学校まで一貫したプライベートスクールである。女性への教育に熱心であった Queen Emma が 1867 年に創立した伝統ある女子校で、キリスト教校である。私立であり比較的裕福な家庭の子供が通っている。

2. 主な取組み（授業へのラジオ体操の導入）

① ラジオ体操導入のきっかけ

小学校 2 年生には日本語の授業の時間があるが、月曜日の一時限目は生徒は皆、そろって眠そうであり、集中力がない。そこで目覚まし代わりにラジオ体操を導入したところ非常に効果があり、好評だったことからラジオ体操を継続的に行い始めた。

② ラジオ体操を授業に取り入れた効果

ラジオ体操はわずか 4 分間であり、授業に差し障りもなく、また生徒たちの集中力を取り戻せるため、教育にも非常に効果的である。ラジオ体操を続けていく上で、スタンプカードを作成し、生徒たちにシールを貼らせ、体操後の気分を絵に書かせたところ、皆一様に「ニコニコマーク」であり、子供たちにも非常に好評である。小学生 2 年生の日本語クラスでラジオ体操を続けた結果、年月が経るにつれて多くの生徒がラジオ体操を知ることになった。昨年（2014 年）は小中高の全生徒で初めて合同でラジオ体操を行った。

3. ラジオ体操等の普及について

ハワイは非常に多様な文化をもっており、異文化にもフレンドリーな土地柄であることから、日本文化としてのラジオ体操等は問題なく受け入れられていくのではないかと考えられます。また、日本文化を知りたいという人も多いため、日本文化の一つとしてラジオ体操等を普及させていくことに意義が認められるのではないかと考えられます。ただし集中力・気分転換といった目的ではなく、ラジオ体操等をもっと普及させていくためには、ラジオ体操等だけを紹介していたのでは不十分であり、何か付加価値を付けていくことが必要ではないかと考えられます。日本の文化として紹介していく、あるいは、ヨガや他の体操と合わせて 1 時間のコンテンツにすることなども必要かもしれないと考えられます。

【コラム】ハワイ「ラジオ体操の会」参加レポート

現地調査の際、NPO ハワイシニアライフ協会が毎週水曜日の早朝に開催している「ラジオ体操の会」に参加させて頂いた。「ラジオ体操の会」が行われているマジックアイランドは、ヨットハーバーとビーチに囲まれたワイキキに程近い静かな公園である。

朝8時を過ぎた頃、「日立の樹」でおなじみのモンキーポッドの木陰に集まり出したシニアの方々が挨拶を交わしながら、出席スタンプカードを幹事の方に手渡していく。出席スタンプを押してもらったカードを童心に返ったような笑顔で受け取る参加者の姿を眺めていると、小学校の夏休みの風景を思い出すような気分になった。

いよいよラジオ体操第一の音楽が流れると、参加者は真剣に、しかも笑顔でラジオ体操を始める。上体を反らせば突き抜けるような青空が広がり、体をねじれば美しい緑が広がるハワイでのラジオ体操は、爽快さが格別であった。手の伸ばし方、腰の曲げ方、一つひとつの動きにメリハリをつけながら体操を行っていくと、ラジオ体操第二が終わるころには薄らと汗ばんでくるのを感じた。途中から現地の方や外国人観光客も飛び入りで体操に参加していく光景には感動すら覚えた。

今回の「ラジオ体操の会」への参加を通じて、ラジオ体操が単なる健康のための体操ではなく、コミュニケーションツールとしても機能し、楽しいコミュニティを醸成する一助となっていることに気付かされた。

図 5 ハワイ「ラジオ体操の会」の様子



第5章 ハワイにおけるラジオ体操普及策の検討

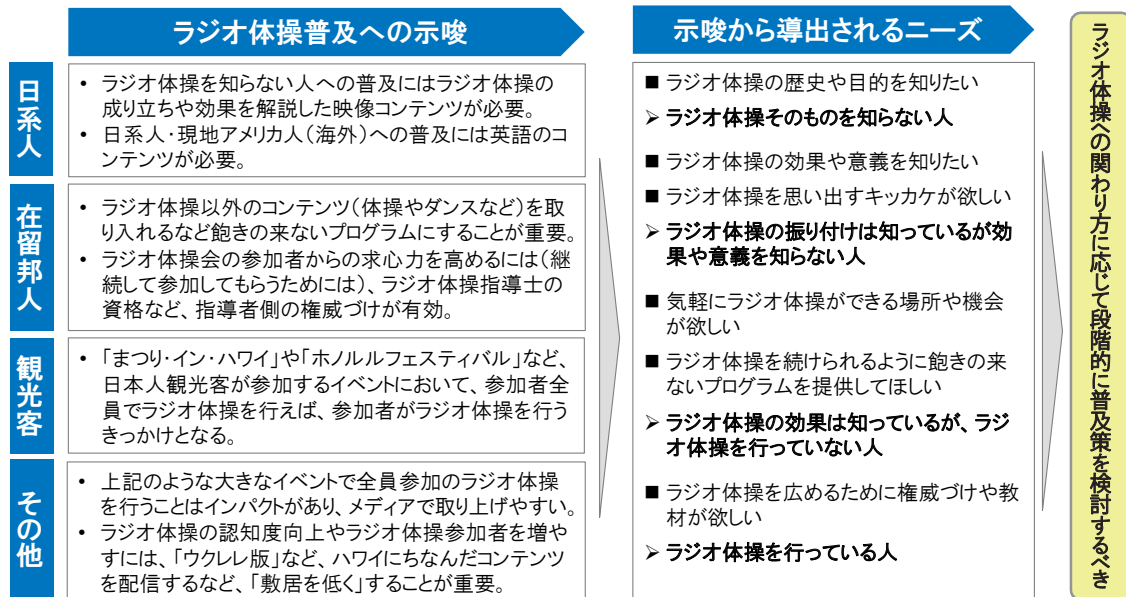
1節 調査結果から導出される潜在的なニーズ

第4章ではハワイにおけるラジオ体操等普及に関する示唆を取りまとめたが、これらの示唆の根底には、①ラジオ体操の歴史や目的を知りたい、②ラジオ体操の効果や意義を知りたい、③ラジオ体操を思い出すキッカケが欲しい、④気軽にラジオ体操ができる場所や機会が欲しい、⑤ラジオ体操を続けられるように飽きの来ないプログラムを提供してほしい、⑥ラジオ体操を広めるために権威づけや教材が欲しい、といった潜在的なニーズが存在すると考えられる。

これらの潜在的ニーズには普段のラジオ体操への関わり方が大きく影響している。例えば、①は「ラジオ体操そのものを知らない人」のニーズであり、②③は「ラジオ体操の振り付けは知っているものの効果や意義を知らない人のニーズ」、④⑤は「効果は知っているもののラジオ体操は行っていない人」のニーズ、⑥は「ラジオ体操を行っている人」のニーズである。裏を返せば、普段のラジオ体操への関わり方によってニーズは異なる、普及のアプローチ方法は異なってくる、ということである。

以上から、海外におけるラジオ体操等の普及は、ラジオ体操への関わり方に応じて段階的に普及策を検討していくことが効果的であると考えられる。

図 6 調査から導出されるラジオ体操の潜在的なニーズ



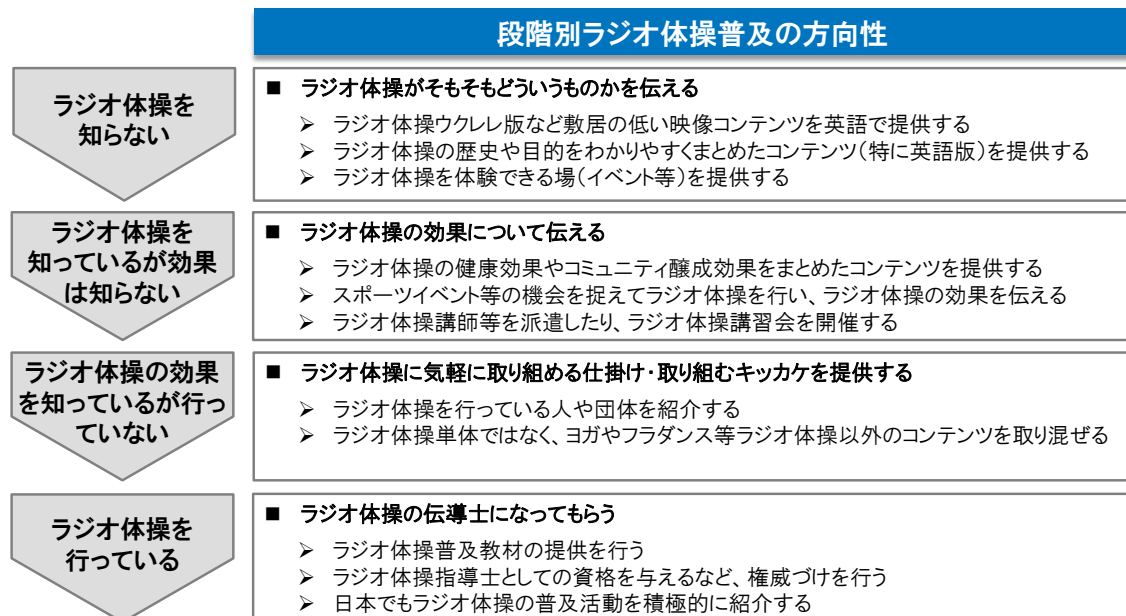
2節 ハワイにおけるラジオ体操普及の方向性

ラジオ体操の普段の関わり方については、①「ラジオ体操を知らない」、②「ラジオ体操を知っているが効果は知らない」、③「効果は知っているがラジオ体操を行っていない」、④「ラジオ体操を行っている」の4段階に分けることが出来る。

ラジオ体操を知らない人に対しては、ラジオ体操がそもそもどういうものかを伝える必要があり、ラジオ体操の効果を知らない人に対しては効果を伝える取り組みが必要である。効果は知っていてもラジオ体操を行っていない人には、ラジオ体操に気軽に取り組める仕掛けやキッカケを提供する必要があり、ラジオ体操を行っている人にはラジオ体操普及のための伝導士として活躍してもらうためのバックアップが必要となってくる。

それぞれの段階に応じたラジオ体操普及の方向性をまとめると下記の通りとなる。

図 7 段階別ラジオ体操普及の方向性



第6章 結論

今回の調査の結果、「日本とハワイにおける負の歴史」を想起させるような表現に注意すれば、ラジオ体操等を普及させていく上での障害はほとんどないことが明らかになった。また現地調査を通じ、簡易保険加入者協会が普及の対象としている日系人コミュニティ、在留邦人コミュニティ、日本人観光客向けの団体および現地メディアは総じてラジオ体操等の普及に対して好意的であり、簡易保険加入者協会からのアクションがあれば協力を得られる可能性が十分に高いことも明らかになった。

海外からラジオ体操等を眺めると、ラジオ体操等が日本の文化であるということに改めて気づかされる。国民の誰もが知っており、音楽が流れれば国民の誰もが皆、同じ動作ができてしまうというのは、海外ではほとんどみられない。特にラジオ体操等について知らないハワイ在住の日系人からは、「どうしてラジオ体操ができたのか」「ラジオ体操が出来た目的は何か」「なぜ皆が同じ動作でラジオ体操ができるのか」について、矢継ぎ早な質問を受けたが、裏を返せばこれが彼らのカルチャー（文化）にはない、日本独特の文化だからである。

今回、現地インタビューに応じて頂いた多くの方、現地で言葉を交わしたハワイ在住の方が口を揃えて言うのは「ハワイは多文化主義であり、異文化に対して寛容である」ということである。ラジオ体操等を日本の文化として紹介し、ラジオ体操等の意義や効果をしっかり伝えていけば、ラジオ体操等がハワイで普及する可能性は十分にある。

日本の文化としてラジオ体操等を伝えていくとすれば、ラジオ体操等の成り立ち（歴史）をはじめ、その効果をわかりやすく現地の言葉で紹介し、かつ気軽に行える場を提供していく必要がある。まずはラジオ体操等が受け入れられやすいハワイでの普及活動に注力し、普及のためのコンテンツを整えていくことが、ラジオ体操等の海外普及への第一歩になると考えられる。

本報告書の著作権は全て一般財団法人簡易保険加入者協会に帰属します。本報告書の記載内容について、承諾なしで無断での転載・引用等を禁止します。